

メディア・セミナー in 沖縄

～信頼のおけるがん情報を届けるために一緒に勉強しませんか～

日 程：平成24年3月3日（土）13：00～16：00

場 所：浦添てだこホール マルチメディア室

対 象 者：継続的にがん医療情報について、学習を希望されるテレビ局、ラジオ局、
新聞社、雑誌社など、広く一般に向けて情報発信されている「メディア関係者」の方々

主 催：琉球大学医学部附属病院がんセンター

共 催：沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会

16：00～記者会見
を行います

12：00 開 場

13：00 開会のあいさつ

増田 昌人（琉球大学医学部附属病院がんセンター長・診療教授）



13：05 信頼のおけるがん情報をより広い対象に届けるためには 『メディア・セミナー』について

演 者： 高山 智子 氏（独立行政法人国立がん研究センター がん対策情報センター

がん情報提供研究部 医療情報サービス研究室 室長）

14：05 休 憩（5分）

14：10 医療情報を「評価する」ーメディアと医療の協働のために 『メディアドクター』 について

演 者： 渡邊 清高 氏（独立行政法人国立がん研究センター がん対策情報センター

がん情報提供研究部 医療情報コンテンツ研究室 室長）

15：10 休憩（5分）

15：15 意見交換会

- ①沖縄県におけるがん情報の報道についての諸問題
- ②沖縄県におけるがん情報をどのように伝えるのか
- ③今後の勉強会のあり方について

◆出席予定者◆

堤岡 健一 氏（日本医療政策機構理事・がん政策情報センター長、

東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット客員教授）

天野 慎介 氏（NPO法人グループネクサス理事長、厚生労働省がん対策推進協議会長代理）

田名 勉 氏（NPO法人日本喉摘者団体連合会沖縄県友声会会長、沖縄県がん患者会連合会会長）

宮里 浩 氏（独立行政法人那覇市立病院 外科部長）

長井 裕 氏（琉球大学医学部附属病院 産婦人科講師）

栗山 登至 氏（琉球大学医学部附属病院 がんセンター 緩和医療担当医師）

15：50 閉会のあいさつ

16：00 記者会見

『平成24年4月1日発行予定 「患者必携」地域の療養情報「第2版」について』

樋口 美智子氏（独立行政法人那覇市立病院 医療支援部 総合相談センター長）

田名 勉 氏 ・ 高山智子氏 ・ 渡邊清高氏 ・ 増田昌人



平成 24 年 3 月 5 日

メディア・セミナーin 沖縄（報告書）

日 程：平成 24 年 3 月 3 日（日）

時 間：午後 1 時 ～ 午後 4 時

午後 4 時 ～ 「患者必携」について記者会見

場 所：浦添市でだこホール マルチメディア学習室

参加人数：26 人（マスコミ関係者 8 人、医療者 8 人、患者の立場 2 人、その他関係者 8 人）

高山智子氏（国立がん研究センター・がん対策情報センターがん情報提供研究部 医療情報サービス研究室 室長）は、これまでの国立がん研究センターでのメディア向けプログラムを基に「信頼のおけるがん情報をより広い対象に届けるにはどうすればよいか」をテーマとして、講演された。そのなかで、メディアと医療者が協働で行うべき情報発信とは何か、そのために必要なことは何かを見つけ出すことで、伝えたい情報と、伝えるべき正しい情報に相違が無くなるということが説明された。また、そのためには、普段から双方の良好な関係作りや、問題意識や知識を共有すること、更に読み手の対象が誰なのかを明確にしたうえで取材することが大切であることが伝えられた。



渡邊清高氏（国立がん研究センター・がん対策情報センターがん情報提供研究部 医療情報コンテンツ研究室 室長）は、「医療情報を評価するーメディアと医療者の協働のためにーメディアドクターについて」と題し、講演された。その中で、リスクを伴う情報を伝えるためにはどう対処したらよいか、損失を最小限にするためにはどうしたらよいかという問題点については、メディア側と対話するうえで、ある一定の規則や方向性をもって説明することが大切であることが伝えられた。また、国立がん研究センターでの実践問題を例として、記事の表題の付け方について各立場から意見を伺ったが、その記事の問題意識の持ち方に相違があることが分かった。



午後の部では、グループワークが行われ、沖縄県におけるがん情報についての報道の諸問題や、情報を伝えるためにはどうすべきかについて意見交換が行われた。その中で、メディア側より、取材を受ける前のある程度の医療知識をつけて取材に伺いたいことや、顔の見える関係作りを築けるようにしたいなどの意見が挙げられた。また医療者側からも、一般の方に正しい情報を知ってもらうためにはメディアの力が不可欠であり、そのためにも良い関係作りが大切であることが伝えられた。

今後の開催方法については、がん種ごとのテーマ別に勉強会を行いながら、両者の意見交換の場として定期的開催する予定である。

